

プロフィール

平成 29 年度司法書士試験合格

本試験結果

総合点：211 点

択一〔午前〕：78 点（26 問）

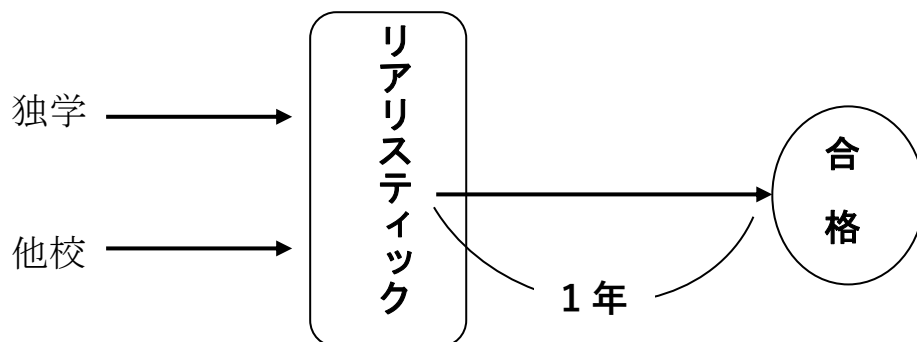
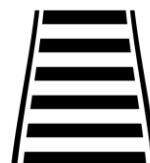
択一〔午後〕：81 点（27 問）

記述：52 点

ノーマル・ワン

勉強期間：約 1 年半

他の予備校で基礎講座：半年→リアリスティック一発合格松本基礎講座：1 年

⇒ 『フツウの基準』を知ってもらう

講義の流れ

1. 具体的なスケジュール—いつ・何をやったか—
 - ①インプット期（学習開始～講義終了）
 - ②直前期（講義終了後～試験前日）
 - ③本試験当日
2. 問題演習の仕方

過去問、答練・模試の使用例
3. 勉強全般で心がけていたコト、意識していたコト

1. 具体的なスケジュール

①インプット期

感覚：「先生の指示どおりやって、まず終わらせる」

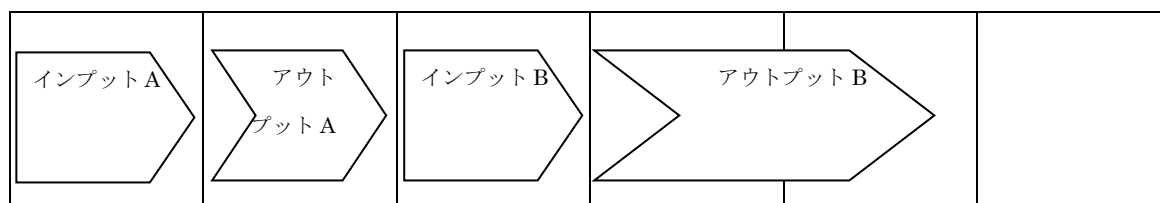
やったこと

- ・講義一通り
- ・追っかけ復習 2 回
- ・択一過去問 1 回
- ・シャドウイング適宜



～択一編～

スケジュールの立て方



- ・目標：6 日で講義 4 コマ分
(実際は、3～6 コマ)
- ・インプットの日とアウトプットの日を分ける

インプットの日

- ・講義 (1～2 コマ/日)
- ・テキスト読む (講義ですすんだ分) ☆

アウトプットの日

- ・過去問
- ・ページをつなぐ ☆
- ・テキストアウトプット

- ・一日のスケジュール

シャドウイング (不動産登記法に入ってから)
 インプット or アウトプット
 追っかけ復習 (民法の講義が終了してから)

心がけていたコト、その他やったコト

- ・講義中の書き込みは素早く。→記述対策
- ・「☆」は特にちゃんとやる
- ・講義視聴後～テキスト読むまでの間隔を空けない。
⇒「忘れない」努力

～記述編～

一日のスケジュール

シャドウイング

講義で扱う問題を解く

講義

講義の復習

追っかけ復習（択一のテキスト）

- ・問題を解く→講義 の順番で、同日にやる。
- ・受講中に復習すべき箇所をマーク。復習時間は約 30 分。

心がけていたコト、その他やったコト

- ・文字は読むことができれば丁寧じゃなくて OK。→不安なら答練・模試で確認。
- ・問題の解き方の定着→時間配分
まずは、記述特有の知識や問題を解く上でのテクニック（問題を読む順番。引くべき箇所に線を引いたか。メモを残せたか。注意事項の取捨選択が素早くできたか等）を確実に身につける。当初は 1 時間～1.5 時間／問かかっていた。
- ・注意事項に時間をかけない。
- ・早いうちから申請書の雛型を覚え始める。
記述の講義開始時点である程度記憶できていた。択一の講義と並行してシャドウイング。
- ・ミスを繰り返さない工夫
⇒テクニックノート

その他

- ・答練・模試は直前期からで十分。

②直前期

感覚：「自分で立てたプランをこなす」「勉強が日常生活の一部となる」

やったこと

- ・追っかけ復習 5 回・答練 8 回（辰巳法律研究所 司法書士オープン総合編）
- ・模試 3 回（辰巳 全国総合模試 2 回：在宅、他の予備校の模試 1 回：会場）
- ・年度別過去問平成 24 年～28 年の 5 年分（法務省の HP からダウンロード）
- ・択一過去問 2 回目・29 年度司法試験予備試験の商法の問題
- ・シャドウイングできるだけ（申請書：不登法、商登法／条文：憲法の統治編）
- ・記述の過去問 各約 10 年分・記述の問題 2 回目（講義で使用した問題）
- ・学説対策（辰巳 「学説問題(+テクニック)で帳尻合わせ講座」）



プランの立て方

- ①答練、模試、年度別過去問の回数と日にちを決める
- ②追っかけ復習の回数と 1 日あたりのページ数を決める
苦手意識のある分野を優先的に、組み合わせながらすすめる。
- ③択一過去問の 1 日あたりの問題数を決める
- ④残りのノルマをあてはめていく
ex. 記述の問題：4 日／週⇒1 問／日

一日のスケジュール

平日：寝起きシャドウイング、択一過去問、追っかけ復習（+ 記述の問題）
土日：模試（or 答練 or 年度別過去問）と復習

超直前期（試験前 1 週間）にやったこと

- ・テキスト詰め込み（暗記パンタイム）
- ・択一過去問の付箋箇所見直し
- ・記述の過去問の解答例を眺める
- ・テクニックノートの見直し
- ・本試験予想ガイダンスでもらったレジューメの見直し
- ・講義でもらったレジューメの見直し
組織再編や不動産登記法のまとめ表等

意識したコト

- ・「念のため」は×

③本試験当日

感覚：「これまでの問題演習の延長」

時間配分〔午後〕

	実際	／	理想
択一	75分	／	70分
記述			
不動産登記法	60分	／	55分
商業登記法	40分	／	55分

解く科目の順番

⇒模試、答練、年度別過去問と同じ

解く問題の順番

⇒過去問と同じ

試験開始前と昼休憩時のルーティン

⇒模試、年度別過去問と同じ

会場受験のすすめ

模試等で一度は会場を経験しておいた方がよいと思う

その他参照先

・テキストをつなぐ

⇒講座推薦文

・記述の学習方法の詳細、本試験当日の様子

⇒合格体験記

2. 問題演習の仕方

【過去問】

- ・ 時間をはかる
 - 午前科目（民、会、憲、刑）
 - 3分以内／問
 - 午後科目（民訴・執・保、供、司、不登、商登）
 - 2分以内／問
 - ・ 2秒ルール
 - ・ 解く問題の順番を決める
 - 学説、対話、個数、穴埋め、空欄補充は後回し。他を先に処理して、考える・読む時間を作る。
 - ・ 解説は見ない
 - 検索先＝テキストで一元化
 - ・ 理由から考える
 - ・ 根拠やポイントとなる箇所に線を引ながら肢を読む
 - ・ 肢の末尾まで読む⇒文末ニョロニョロ
 - ・ 自信に応じて各肢に記号をつける
 - 「○」 …絶対に正しい
 - 「×」 …絶対に誤り
 - 「△(○)」 …正しいと思うけど根拠があいまい
 - 「△(×)」 …誤りと思うけど根拠があいまい
 - 「△」 …わからん
- ⇒確実に判断できる肢からつぶす。
- ×「だろう」運転
 - 「かもしれない」運転

【模試、答練、年度別過去問】

択一の正答数

答練（目標：24問）

一度21問で、他7回はすべて25問以上

模試（目標は同じ。）

午前／午後

1回目 26問／24問

2回目 27問／29問

3回目 29問／27問

- ・目的：問題の解き方・時間配分の確認

△「何点取れたか」（目安に過ぎない。記述の点数はあてにならない。）

- ・時間配分と解く問題の順番は過去問と同じ

- ・解く科目の順番を決める

〔午前〕 会→民→憲→刑

〔午後〕 択一：民訴・執・保→供→司→商登→不登⇒記述：不登→商登

- ・後回しの仕方を決める

①テキストに「○」＋塗りつぶし ②ドッグイヤー＋問番号に「○」

- ・ルーティンを決める

試験開始前：

会社法のテキスト1コマ分を読む／テクニクノート・議事録を見る

午前と午後の合間：

20分前後のラジオを聴きながら昼食／テクニクノート・議事録を見る／テキストの
民事保全法のページを読む

<復習>

- ・復習箇所：間違えた問題とどうしても気になった問題

復習時間は0.5～1.5時間。

- ・テキストから根拠を探す

解説は見ない。検索先の一元化。

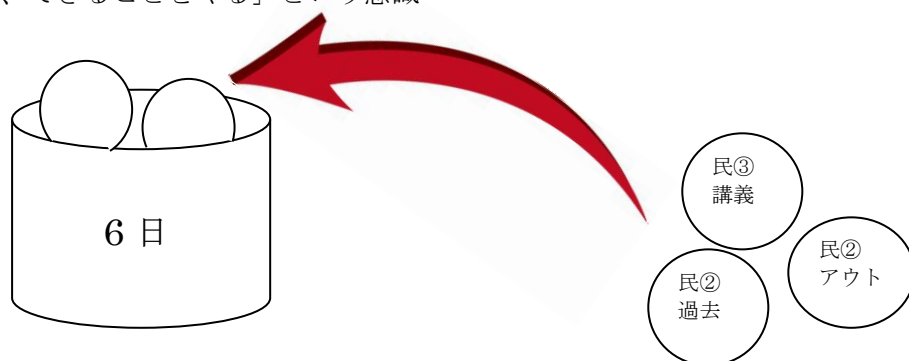
- ・凡ミス対策

⇒議事録、テクニクノートをつける。

3. 勉強全般で心がけていたコト、意識していたコト

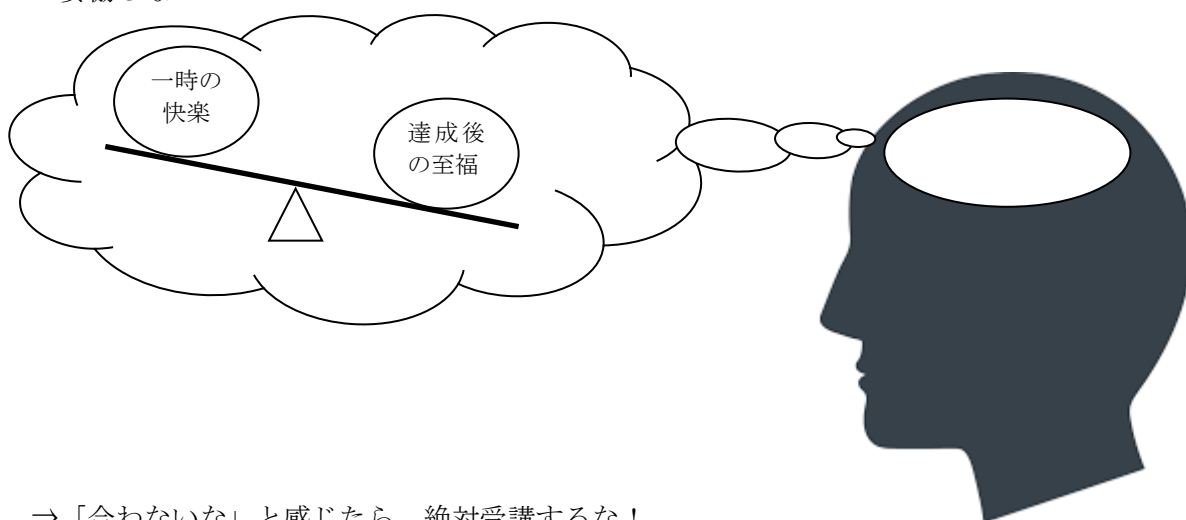
【考え方】

- ・達成感を得る工夫
 - ex. 毎日ノルマを立てる⇒「できたこと」を振り返る。
ノルマはできるようになってから少しずつ増やす。
- ・ノルマ=玉入れ
 - 制限時間を設ける⇒途中でも0時で終わる
 - 「今、できることをやる」という意識



『細分化したノルマを、設定した枠の中に投げ込む』感覚
 ノルマ=「量」と「質」 (×「時間」)
 特に時間が限られているときは、色分けして優先順位をつける。
 ex. 赤玉→青玉→黄玉 の順で投げ入れる。

- ・心の整理
 - 「自分で何とかできること」と「自分ではどうにもできないこと」を区別
 - スイッチを作る
- ・妥協しない



⇒「合わないな」と感じたら、絶対受講するな！

【使ったアイテム】

・本

「ヒクソン・ 그레이シー 無敗の法則」ヒクソン・ 그레이シー著、ダイヤモンド社、2010.9
心の持ち方を自分でコントロールすることの大切さを教えてくれます。

・曲

"AMBITIOUS JAPAN!" TOKIO

前向きな歌です。モチベーションを上げるために役立ちました。

・ラジオ

「くりいむしちゅーのオールナイトニッポン」

勉強中や本試験の休憩時間でも視聴（同ラジオ内『ぶにすけパチェコのコーナー』）。

インテリで知られ教養の深い二人の、TVでは見られない熱い語りを聴くことができる。「よし、やろう！」と思わせてくれた。

